

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472400324
法人名	社会福祉法人 日就会
事業所名	グループホーム 悠里の郷
所在地 (電話番号)	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1 (電 話) 0223-34-0281

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 2 月 18 日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人非常勤 人	常勤加算 15人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 平家 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,100 円	光熱水費(月額)	21,000 円	
敷 金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(1 月 21 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86,9 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南浜中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

亶理駅から車で10分、国道6号線にも近く、海と山に囲まれた温暖な気候と自然に恵まれた閑静な場所にグループホーム「悠里の郷」がある。昨年管理者の交代があったが、現管理者は認知症介護経験が長く、安定した支援が保たれている。また管理者の異動の際には、直接家族へ報告するなど綿密に連携を図っている。ホームは、月一回協力医師が往診を行っており、同法人の歯科衛生士の指導を受けるなど、入居者の健康管理は良好である。一人ひとりの「生活の様子」記録やモニター反省記録等で日々のケアを見直し情報を共有するなど、サービスの向上に反映させる努力を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域との交流は行事の際ホームを見学して貰うなど交流が図られている。②研修については受講する機会が増え改善されている。③同業者との交流は昨年からの課題として引き続きお願いしたい。④重度化や終末期に向けた方針の共有については尚一層の努力をお願いしたい。⑤災害対策はホーム独自の避難訓練を行い地域の協力がもたらえる努力をして頂きたい。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 評価の意義は全職員が理解しており、自己評価票を全スタッフに配布し記入してもらい、職員間で話し合いをして各ユニットリーダーと管理者がまとめて作成している。評価結果はホーム内に掲示し誰でも見られるようにしており、改善項目については、スタッフ間で話し合いをして前向きに取り組んで行くとしている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催している。会議ではホームの取り組みや状況報告の後、家族から通院時に町の移送車を利用出来ないかとの質問があったり、区長からも意見を貰うなど双方向的な会議となっている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時や行事等の際に意見や不満、苦情等を直接聴くようにしており、その都度対応し運営に反映させている。また相談窓口として、ホームや行政機関、第三者委員2名を委嘱し、重要事項説明書にも記載し家族に伝えている。玄関には「意見箱」が設置されていた。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には加入していないが、地域の区長や民生委員は運営推進員のメンバーであり、近隣住民のパイプ役として協力をもらっている。また、老人クラブや児童館、小学校等からホームの行事等に参加してもらい交流を図っている。今後は、地域の行事など交流を深めて行きたいとしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からホーム独自の理念を作成し、職員間で愛着を持って理念を共有している。また介護理念10か条を明記しており、入居者が地域社会の一員としての生活の継続を支える理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念と介護理念を全職員に配布し、理念の共有を図っており中途採用者にも随時渡している。理念は、各ユニットの玄関の目のついやすい場所に掲示され、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人特養ホームと合同での夏祭りや、ホーム独自の芋煮会には、入居者の家族や地域の老人クラブ、児童館の親子、運営推進員のメンバー等の参加があり、その後、ホームを見学して貰うなど交流を図っている。児童館や小学校から学習発表会等の招待もあり、更に地域の行事などで交流を深めて行きたいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は全職員が理解しており、自己評価票を全スタッフに配布し記入して職員間で話し合い、各リーダーと管理者がまとめて作成している。評価後は各ユニットに回覧し、改善項目は、スタッフ間で話し合いをして前向きに取り組んでいる。また評価結果については、ホーム内に掲示する予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。会議には、入居者、家族、区長、民生委員、包括支援センター職員、特養苑長、ホームから2名が参加している。ホームの取り組みや入居者の状況報告の後、家族から通院時に町の移送車を利用出来ないかとの質問があったり、区長から地域の様子や意見を貰うなど双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者との行き来は少ないが、包括支援センターとは、日常的に情報やアドバイス等貰っている。今回の外部評価には町の職員が同行しており、評価やホームの様子などを見学し、認知症の理解やホームとの連携が図られる良い機会と捉えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回「生活の様子」や請求書等郵送で家族に報告している。また、通院時や薬を届けた時など、必ず入居者の近況を伝えている。管理者の異動の際は、家族に直接電話で報告している。年に3回「広報紙」を発行し、お誕生会や行事等を写真入りで状況報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事等の際に意見や不満、苦情等を直接聴くようにしており、その都度対応し運営に反映させている。また、気軽に相談できる窓口として、ホーム、行政、第三者委員2名を委嘱し、重要事項説明書にも記載し家族に伝えている。玄関には「意見箱」が設置されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年管理者の交代があり、入居者や家族に与える不安を最小限に抑えるため全職員一丸となって支援に努めた。また、看護師の退職により、今まで行って来たりハビリ体操等が難しくなり、職員の創意工夫で様々な話題を提供して、話しのきっかけをつくったりテレビ体操等を取り入れて行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフが研修会に参加できるように取り組んでおり、内部研修や外部研修は、段階に応じて受講している。認知症実践者研修会やキャラバンメイト等に参加し、その内容を共有するなど職員の育成に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流は定期的に行われており、NPO県グループホーム協議会の研修等にも参加している。しかし、地域の同業者との勉強会や交流への取り組みは昨年からの課題にあげている。	○	地域のグループホームとの交流や勉強会等への参加は、職員を育成するうえで必要である。ホームでは同業者との交流会や相互研修等は不十分だとしており、働きながら交流する機会を持ち、また、同行した町の職員のアドバイスを受け、ネットワークづくりを進めていきたいとしているので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得して入居してもらうために、自宅に訪問して情報を得たりホームを見学するなど徐々に馴染んでもらい、家族と相談をしながら本人の状況に合わせて入居につながるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリとして、テレビ体操やズンドコ体操等入居者と一緒に楽しく行っている。日々の生活の中での食事の準備や後片付け、また、郷土の歌、「えんころ節」や昔の言い伝えなど本人から学ぶ事も多く、いつも感謝して支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや意向は、生活歴等をアセスメントで把握しており、日々のケアの「生活の様子」記録から思いを汲み取るなど、個々の支援に努めている。また、意思の汲み取り方の困難な方には、家族より情報を得て本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式で本人の意思や意向を把握し、家族の面会時に意見や要望を聴いたり、毎日のケア記録、「生活の様子」などを活かして、計画作成担当者を中心に全体会議で話し合い、個々のケアプランを作成し、本人や家族に説明し同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは定期的に見直しを行っている。毎月モニタリング評価会議を実施し、入居者一人ひとりの事項を見直しケアプランに繋げている。また、急変時には家族も参加してカンファレンスで話し合い、生活援助計画書を作成し渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出は、基本的には家族が行っているが、美容院や買物などその時の状況に応じて柔軟に対応している。空室時にはショートステイへの取り組みも検討したいとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診しているかかりつけ医が殆どであり、必要な医療として支援している。通院の際は、家族にバイタル表や排泄表等を渡して受診してもらっている。また、月に一回は協力医師からの往診があるなど、医療機関との連携は図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	月に一度協力医が往診して入居者の健康をチェックしたり、相談できる体制はある。しかし、重度化や終末期に向けて、ホームとしての対応方針や指針は成文化されていない。	○	重度化や終末期に向けて、早い時期から職員や、家族、医療関係者等と話し合いを行い、ホームの出来ることへの対応方針を定めて成文化していただきたい。またそれを家族に説明し同意が得られるように働き掛けるなど、職員の知識や技術のスキルアップも含めお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法は全職員が周知しており、トイレ誘導の際には言葉のトーンを低くしたり、居室に入る時はドアをノックし、声を掛けるなど配慮して支援している。個人の記録書は書棚に保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムやペースに合わせて、日課となる(起床、食事、入浴、就寝)支援は柔軟に対応している。鼻唄混じりで歌っている人、職員に頻繁に話し掛ける人など、その人らしく自由にのんびりと過ごされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が入居者の嗜好を考慮して献立を作成している。行事食や誕生会などは、入居者の好みに合わせて食事が楽しい物になるように工夫している。食事の準備や後片付けなど、職員のさり気ない支援の下、楽しみながら一緒に行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの習慣を活かして、その人に合った支援をしている。毎日入浴を楽しまれている方、3日に一度の方、また、今まで拒んでいた方も入浴をするようになったなど、それぞれに合わせて対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴を参考にして、その人の持っている力を発揮してもらい、茶碗拭きや居室のモップ掛け、野菜を切ったり、味付けなど一緒に行っている。また、職員の工夫で話題提供時間を設けたり体操やぬりえ、計算ドリルなど、その人の状況に合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはその人の希望に応じてホームの周辺を散歩したり、併設している特養ホームやデイサービスに向いてお茶を頂いている。また、日帰り温泉や竹駒神社、海や飛行場、実家の近くまでドライブするなど、気晴らしの支援となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室等に鍵は掛けていない。入居者一人ひとりの所在を把握しており、不穏の方には職員の見守りで対応するなど、鍵を掛けないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回総合防災訓練を実施している。災害時の備蓄については、昨年断水があった時に、水の確保をして役に立つなど、備品の大切さを痛感した。しかし、ホーム独自の避難訓練や夜間を想定した訓練は、行っていない。	○	夜間体制で、災害の時に入居者を慌てず、不安なく避難誘導するために、ホーム独自の夜間想定を含めた避難訓練は必要である。また、職員と入居者が一緒になって訓練を実施し、地域の消防団等に働き掛けるなど、理解と協力が得られるよう取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の栄養士の指導の下で食事担当者がその人の食事量や水分量、栄養バランスを考慮して献立を作成している。疾患のある方には、食事量等で制限をしたり、月に一回の体重測定により健康の調整を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の正面には、時節柄、雛人形が飾られ、その横には桃の花が飾られ楽しませてくれている。居間には、床暖房による保温、換気、程好い採光、また、堀コタツも置かれるなど環境の整った居心地の良い共用空間である。広いウッドデッキでは、暖かい日はお茶を飲んだり、芋煮会を行ったりと楽しみ方は色々である。共有スペースでは、思いおもいに過ごされている入居者の姿があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て以前から使っていた馴染みの品、TV、テーブル、タンス、机、椅子等持ち込まれている。また家族の思い出の写真や位牌をそばに置いて安心するなど、それぞれの住まいとなっている。居室には各々が用意された加湿器が設置されていた。		